

平成 28 年度 相模原療育園事業報告

1 療養介護事業

1) 利用者状況

(1) 定員 58 名 (男 30 名 女 28 名)

(2) 年齢別 (最高年齢 : 76 歳 最低年齢 : 19 歳 平均年齢 : 46.3 歳)

歳	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
男性	0	2	6	10	9	2	1
女性	1	1	3	15	6	2	0
計 (名)	1	3	9	25	15	4	1

(3) 入所者医療度

項目	人数
超重症児	5 名
準超重症児	6 名
気管切開	3 名
CV ポート留置	1 名
経鼻経管	3 名
胃 瘻	12 名
膀胱瘻	1 名
腸瘻	1 名

(4) 大島分類

大島分類	人数
1	30 名
2	19 名
5	5 名
8	1 名
9	1 名
10	2 名

(5) 1 年間の推移

新規入所	0 名
転 所	0 名
死 亡	0 名

2) 医療

利用者の高齢化に伴い、身体予備能の低下による疾患の重症化が目立つ。誕生月には血液・尿、脳波、心電図、腹部超音波、胸腹部レントゲンなどの定期検査を実施し、疾病の早期発見や早期治療に努めている。

今年度は 1 名が新たに乳癌と診断され、近々相模台病院外科で手術を行う予定である。

3 名の利用者が体調の急変で他院に搬送し、入院加療を要した。全前脳胞症の 1 名が、肺炎と無気肺から CO2 ナルコーシスとなり、北里大学病院呼吸器内科に救急搬送した。ご家族が気管切開、人工呼吸器管理を希望されなかったため、CT 検査などを行った後、帰園したが、昨年度に導入した排痰補助装置カフアシストの使用と肺理学療法を集中的に行うことにより、CO2 ナルコーシスの状態から脱却でき、呼吸状態は改善した。1 名は、腎盂腎炎を発症し、抗菌薬

を投与したにもかかわらず、敗血症となったため、相模原病院泌尿器科に救急搬送した結果、尿路結石が重症化の原因であることが判明。感染症のコントロールがついた時点で、相模台病院泌尿器科に転院となり、結石破碎術を行った。また、経口摂取が可能でこれまで体調が安定していた1名が、発熱、高い炎症反応を示し、腹部所見から急性腹症を疑い、相模原病院外科に搬送。十二指腸憩室穿孔と判明し、穿孔部の縫縮術と腸瘻造設術を行った。術後の経過は良好で、帰園後は経口摂取と腸瘻からの経腸栄養を併用している。これら3名は、迅速に的確に他院に搬送した結果、無事に帰園することができた。

前述した結石により尿路感染症が重篤化した症例の経験から、定期的実施している超音波検査で、結石が徐々に増大した1名と、腎結石により水腎症に至った1名について、相模台病院泌尿器科に依頼をして碎石術を行った。

呼吸器感染症を繰り返す傾向のある利用者に積極的にカフアシストを導入することで、呼吸器感染症の頻度が減らすことができています。

2月にインフルエンザウイルスAが流行し、5名が罹患したが、重症化することなく速やかに改善した。適切に隔離し、早期に面会を中止し、標準予防策を徹底することで、さらなる感染の拡大を防ぐことができた。

3) 看護

平成28年度、新たに医療ケアが必要になった利用者は3名で、CVポートの管理、腸瘻チューブの管理が開始となった。この経験がない2つの医療ケアについては、安全に実施できること、看護技術を確実にすることを目的に、学習会を実施した。必要な医療ケアの習得により、看護師の知識・技術の向上につながった。

27年度に比して、入院にはならなくても他院を受診する利用者が増加し、延べ91名（平成27年度より36名増加）となった。年々、他医療機関を受診して治療等が必要になる利用者が増加しており、医療のグループではない利用者もその機会が増加している。看護師が医療ケアを必要とする利用者に関わり、業務・体制の見直しを継続して実施している。

感染については、27年度から開始した擦式消毒薬の個人携帯が定着し、処置・食事介助等の生活支援場面で積極的に使用し、個人の消費率も増加している。

利用者の医療的な問題については、担当医とグループでのカンファレンスを実施し、情報共有できるようにした。また方針については、グループ以外にも勤務者で集まって情報を伝えることで、他職種で協力体制がとれるよう心がけた。

4) 生活支援

利用者のQOLの向上を目指し、利用者主体とストレングスに視点をおいた個別支援計画を作成し、ニーズにそった生活支援ができるよう取り組んだ。計画内容や実施状況等をケース会議で共有し、モニタリング実施後は必要に応じて計画内容の追加、修正を行った。

利用者の生活を豊かにすることを目的に、活動(個別・グループ・余暇)、動物ふれあい療育などを行い、季節の行事を積極的に実施し、生活に節目をつくった。今年度の試みとして、今までグループ別で実施していたカーハイクを目的別に変更し、少人数で実施した。より個々のニーズに対応できるような支援となった。また、招待があったサーカスや人形劇など、外部の催しにも参加できるようにし、利用者が色々な世界に触れる機会を積極的に作れるようにした。

例年のように、福祉分野での次代を担う人材育成の一助となるよう、介護福祉士・保育士を目指す学生実習を積極的に受け入れた。新たに1名が実習指導者研修に参加したこと、介護福祉士と保育士の実習指導担当者を明確にし、各専門職に合った質の高い実習指導ができるよう取り組んだ。

【 平成28年度 年間活動内容 】

月	グループ活動			余暇活動		カーハイク			
	活動内容	行事・小行事 外出	装飾 その他	活動内容 ◎ボランティア	参加 数	場所	外出先	体験活動	参加 数
4	外気浴 お花見	誕生会・観劇 動物ふれあい	桜・チュー リップ	ボウリング 外気浴	全員 14名				
5	ムーブメント 「春の野原にて」 絵本「ぼつぼつぼつ」 ふれあい草花 春を感じよう	動物ふれあい	五月人形 鯉のぼり	外気浴	9名				
6	春の運動会 エアートランポリン 制作「あじさい」	さがおい 誕生会 動物ふれあい		ゲーム (点数取り)	全員	藤沢 横浜 町田 横浜	片瀬海岸 新江ノ島水族館 MARK IS みなとみらい シダックス 町田木曾クラブ ヨコハマグランド インターコンチネンタル ホテル	海・水族館 ショッピング カラオケ ビュッフェ (イタリア料理)	3名 3名 4名 4名
7	トランポリン 揺れスクーターボード 身体表現「海」 ムーブメント「海」 感覚刺激 「風を感じよう」	七夕 夏祭り 動物ふれあい	七夕飾り 夏祭り	ボウリング 足浴	全員 6名	横浜	オービイ横浜	体験型 ミュージアム	6名
8	感覚刺激「水」 感覚刺激	誕生会 ひまわり観賞		◎読み聞かせ会 涼風流し ◎ウクレレ演奏会	18名 43名 全員				
9	フルーツバスケット 鏡で覗いてみよう	誕生会 動物 ダリア観賞		◎ゴスペル コンサート	全員				
10	外気浴 パラシュート スノーズレン 風を感じよう	誕生会 動物ふれあい		制作 「ハロウィン」	全員	立川 相模原 愛甲郡 横浜 小田原 愛甲郡	昭和記念公園 オギノパン 服部牧場 あいかわ公園 よこはま動物園 ズーラシア 小田原城 宮ヶ瀬湖畔	公園・乗り物 パン工場見学 動物とのふれあい 動物とのふれあい ロマンスカー 乗り物 ダム見学・乗り物	4名 4名 4名 4名 3名
11	ビンゴゲーム ムーブメント 「秋の収穫」 制作「暖まろう」 光 「もうすぐやっ て来るクリスマス」	誕生会 動物ふれあい	クリスマス ツリー	制作 「クリスマス」	7名	横浜 横浜 藤沢	横浜ベイホテル東急 横浜ランドマーク タワー よこはま動物園 ズーラシア 横浜・八景島 シーパラダイス 湘南台文化センター	ビュッフェ 展望 (スカイガーデン) 動物とのふれあい 水族館 民族系・科学展示	4名 4名 8名 4名
12	リラックス 温まろう ベルハーモニー 制作「ランプ」	クリスマス会 観劇(劇団 四季) 動物ふれあい	お正月飾り 酉	制作 「クリスマス」	7名				
1	初詣	初詣 誕生会 動物ふれあい		制作 「節分」	全員				
2	節分	節分 誕生会	お雛さま	ボウリング 「節分」	全員				
3	ひなまつり フォークダンス 戸外活動	誕生会			全員				

5) 薬局

平成 28 年度は常勤薬剤師 1 名、非常勤薬剤師 1 名（常勤換算 0.3 人）で業務を行った。

院内処方箋、外来処方箋の正確な調剤、医薬品、消毒剤などの適切な在庫管理を行い、医薬品に関する様々な情報を施設内へ伝達した。病棟業務として定時処方箋の作成、配薬カートへの定時薬充填、定時薬・臨時薬の配薬、注射剤の個人別セット、病棟配置薬の管理など医薬品に関わる業務全般を行った。薬事委員会、医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡対策委員会、栄養管理委員会、ケース会議に参加、他職種と連携し、チーム医療に貢献した。看護師会、ケース会議等で、他職種に向けての情報発信、医薬品に関する勉強会を実施した。施設内外の研修に積極的に参加し、専門的知識の向上に努めた。

処方箋枚数（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
定時	56	56	83	58	57	57	57	57	86	57	57	57	738
臨時	172	175	208	183	220	204	198	202	194	192	178	211	2,337
外来	15	30	8	8	21	17	14	15	17	15	21	12	193
注射	59	69	49	114	141	102	95	127	78	76	68	142	1,092

6) リハビリテーション

理学療法士（PT）常勤 3 名、作業療法士（OT）非常勤 2 名で、個々の必要性に応じて理学療法と作業療法を実施した。実施人数は述べ 1,202 名（前年度より 590 名増加）、実施単位数は 2,063 単位（前年度より 1,091 単位増加）

理学療法は、延べ実施人数 1,142 名（551 名増加）、延べ単位数 1,971 単位（1,029 単位増加）。呼吸介助・排痰が必要な利用者、筋緊張が強く関節可動域制限が強い利用者、職員・保護者からのニーズの高い利用者を中心に介入し、また車いす作製（2 件）、座位保持装置作製（3 件）、下肢装具作製（1 件）を行った。常勤職員の一名増員により利用者の実施人数、単位数共に増加した。平成 29 年 1 月よりカフェアシスト実施体制を整え、毎朝の実施時に看護師と協働した（延べ 55 回）。

作業療法は、延べ実施人数 60 名（29 名増加）、実施単位数 92 単位（62 単位増加）であった。

7) 栄養

長年使用してきた濃厚流動食の内容を見直し、ライフロン Q10 から新規に CZ-Hi への切り替えを行った。

胃瘻食の提供を 1 日 1 回から 2 回にし、食事の注入回数を増やした。

夏祭りでは屋台メニューの要望を受け、それらを食べやすく工夫したものを提供した。クリスマスメニューは、プチオードブルから始まってデザートまでの洋食メニューにし、中でもパンは初めて生地から手作りして、焼きたてのパンを提供することができ好評を得た。



また、栄養管理委員会では、利用者個々の現在の摂食状態の把握と情報の共有を目的とした、「摂食評価会議」を開始した。ビデオ撮影した様子を職員全員で評価することで食事介助を行う職員のスキルアップにも繋がり、データの管理で長期的な利用者の摂食状態の変化を追うことができる。

2 短期入所事業

1) 利用者状況

(1) 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	15	14	20	19	20	17	16	13	13	16	8	15	186(名)
延日数	77	74	98	73	85	78	73	58	62	74	41	69	862(日)

(2) 利用者年齢別

年齢	人数		
児童	2歳未満	0名	計 18名
	2～6歳	1名	
	7～17歳	17名	
成人	18～19歳	4名	計 34名
	20歳以上	30名	

(3) 重症度スコアに基づく準・超重症児者数

スコア	人数	
超重症児 (25以上)	18歳未満	0名
	18歳以上	2名
準超重症児 (10以上)	18歳未満	5名
	18歳以上	2名
医療的ケア	18歳未満	7名
	18歳以上	4名

平成 28 年度は、新規利用者は 7 名あり、うち 2 名は児童相談所、障害福祉課からの依頼で、緊急性が高かった。

2) 医療・看護・生活支援

平成 28 年度短期入所を利用された方の医療度は、平成 27 年度と変化はなかった。新たな取り組みとして、各グループに生活支援課の 1 名を担当者として配置し、短期入所時の支援の向上に取り組んだ。1 年間、退所時に支援課の担当者が、入所中の様子を直接家族の方に話すようにし、実施した支援が家族に伝わるようにした。また、各グループに担当者がいることで、短期利用者の情報を伝えやすくなり、また入所中の記録も支援内容がわかりやすく記載されるようになった。

平成 29 年度は、この取り組みをさらに推進していく予定である。

3) 薬局

入所時面接に同席し、短期利用者が持参した薬（持参薬）の鑑別を実施した。

持参薬鑑別件数（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	11	15	18	16	17	11	16	10	12	17	13	17	168

4) 栄養

胃瘻食注入の方に、ご家庭での注入と同様にそれぞれの食事を調整し、提供した。アレルギーのある利用者には、個別に献立を作成し代替の食事提供を行った。

3 生活介護事業

1) 利用者状況

(1) 登録 14 名（男 6 名 女 8 名）

(2) 年齢別（最高年齢：41 歳 最低年齢：18 歳 平均年齢：27 歳）

歳	18～20	21～30	31～40	41～50
男性	0	3	2	1
女性	3	3	2	0
計（名）	3	6	4	1

(3) 利用者医療度

項目	人数
超重症児	2 名
準超重症児	2 名
気管切開	4 名
胃瘻	2 名
経鼻経管	2 名

(4) 大島分類

大島分類	人数
1	11 名
2	2 名

2) 事業実施状況

登録数	利用人数	1日平均	送迎	給食	入浴	医療ケア	新規	解約
14名 (0)	1325名 (+183)	5.4名 (+0.8)	2448名 (+351)	997件 (+114)	532件 (+50)	5名 (+1)	3名	2名

()は前年度比較

今年度、4月より新規2名が利用開始となった。8月、1月にそれぞれ1名ずつが契約終了となった。9月より新規利用者が1名入り、3月末の登録者は14名になっている。

昨年度と同様、利用者のニーズに応えられるよう希望時の臨時利用を積極的に実施し、8月には他事業所の夏休み期間に、態勢を整えて受け入れた。8月15日～19日の5日間で、延べ44名、平均8.8名の利用となった。

3) 事業内容

個人ファイルの充実を図ってきたことにより、日々担当者が代わる看護師が、医療的ケアの内容把握がしやすくなっている。健康管理として昨年同様、健康診断、インフルエンザの予防接種、希望時医師との面談を実施した。

個別支援計画は、個々のニーズに合った計画を作成し、外部ボランティアの方に来園してもらい音楽に触れる時間を作る、バーベキューなどの戸外活動等、小集団のよさ個別のよさそれぞれを活かした取り組みを行った。

送迎の際には、家族の方と積極的にお話を聞くようにし、利用者・家族とのコミュニケーションを深めるよう心掛けた。また、中央支援学校からの実習を積極的に受け入れることで、次年度の新規利用につながっている。

4 外来診療

1) 医療

外来は月曜日・火曜日あわせて月6回で完全予約制である。また増加する発達障害の患者に対応するため、2名の小児科医が月2回木曜日午前、月2回金曜日午前午後に発達外来を行っている。今年度の外来受診者は延べ4,172名（前年度より124名減少、初診は105名（前年より26名増加））でそのうち69名が発達障害の子どもであった。登録患者が体調不良の際には、平日の日中であればいつでも対応している。被虐待ケースは児童相談所職員や子ども家庭相談課の職員が外来受診に同行するケースがあり、事態が深刻な場合には、行政や学校と情報交換をしている。

また今年度は、これまで定期的に毎週月曜日に実施していた臨床検査が不可能になり、北里大学病院の臨床検査技師に脳波検査の応援を依頼した。また新たに超音波を専門とする臨床検査技師により第4火曜日を超音波検査とした。

2) リハビリ

外来の実施人数は延べ2,220名（前年度より189名減少）、実施単位数は6,468単位（前年より482単位減少）であった。内訳は理学療法延べ患者数1,463名（35名減少）、実施単位数4,257単位（20単位減少）、作業療法延べ患者数722名（154名減少）、実施単位数2,137単位（460

単位減少)、言語聴覚療法は非常勤1名、月1回の勤務で延べ患者数35名(増減なし)実施単位数74単位(2単位減少)、発達検査の内訳はWISC-IV知能検査14件実施(1件減少)、田中・ビネー知能検査V8件実施(5件減少)、新版K式知能検査9件(8件増加)であった。

新たな試みとして、バンビ年長児4名を対象としたグループセッションを週1回の頻度で合計10セッション実施した。

PT・OT・ST 個別療法実績(前年度増減)

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計	前年比
延べ患者数	6歳未満	339 (15)	506 (-35)	19 (-3)	864 (-23)	97.4%
	6歳以上18歳未満	582 (-61)	214 (-121)	16 (3)	812 (-179)	81.9%
	18歳以上	542 (11)	0 (0)	0 (0)	542 (11)	102.1%
	合計	1,463 (-35)	722 (-154)	35 (0)	2,220 (-189)	92.2%
単位数	6歳未満	1,027 (120)	1,510 (-78)	42 (-7)	2,579 (35)	101.4%
	6歳以上18歳未満	1,751 (-161)	624 (-385)	32 (5)	2,407 (-541)	81.6%
	18歳以上	1,479 (21)	0 (0)	0 (0)	1,479 (21)	101.4%
	合計	4,257 (-20)	2,137 (-460)	74 (-2)	6,468 (-482)	93.1%

補装具関係は、毎週木曜日、隔週水曜日、必要時随時実施した。患者担当PTが同席しコーディネートした。(車椅子9件、座位保持装置6件、下肢装具25件、座位保持いす1件、歩行器1件、日常生活用具3件、相模原市障害児訓練器具等購入費助成制度を利用した訓練器具3件、計48件)

3) バンビとの連携

児童発達センターバンビと連携し、バンビに通う子どもを定期的に外来で診察している。年に2回、外来の医師・看護師・リハビリスタッフと、バンビの療育スタッフでバン療会議を開催しており、今年度は8月と3月に実施し、情報交換・共有をすることで、子どもの発達支援や保護者の療育支援に役立っている。

4) 外来会議の開催

今年度から外来会議を設け、月1回、バンビに通っている子どもについて、外来医師、外来

看護師、リハスタッフが情報交換をし、よりよい医療が提供できるように努力している。

5) 各種勉強会の開催

理学療法士主催で補装具作製業者と協働し「靴を学ぶ、歩行を学ぶ、幼児の足を学ぶ」をコンセプトに勉強会を立ち上げ、1～3月に3回実施した。

外部組織である「小児症例検討会」に理学療法士が参加し、相模原療育園を会場に外来患者の症例検討を1月に1回実施した。

5 地域連携

1) 北里大学病院初期臨床研修地域医療研修

平成17年度より北里大学病院臨床研修協力機関として、初期研修医の地域医療研修を受け入れている。今年度は10月に1名、11月に1名の研修医が1か月間研修を行った。

またこれまで研修をした医師にアンケート調査を実施し、当施設で重症心身障害児者に対する医療を1か月間行ったことがどのような影響をもたらしたかを調べるため、アンケート調査を実施し、その結果を第42回日本重症心身障害学術学会で発表、第43回東日本施設長協議会で報告をした。

2) リハビリテーション 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
6～7月	7週間	4年次 臨床実習 II	信州大学医学部保健学科 理学療法学専攻4年	1名
1月	5日間	2年次 臨床実習 II	北里大学医療衛生学部リハビリ テーション学科理学療法学専攻2年	2名
2月	5日間	クリニカルインターンシ ップ I (見学・体験実習)	帝京平成大学健康メディカル学部 理学療法学科1年	2名
2月	5日間	クリニカルインターンシ ップ I (見学・体験実習)	帝京平成大学健康メディカル学部 理学療法学科1年	2名
1月	1日	1年次 臨床実習 I	北里大学医療衛生学部リハビリ テーション学科理学療法学専攻1年	22名
2月	1日	1年次 臨床実習 I	北里大学医療衛生学部リハビリ テーション学科1年	21名
合 計				50名

3) 理学療法士による神奈川県立相模原中央支援学校訪問

平成23年度より、学校側からの求めに応じ、理学療法士2～3名が神奈川県立中央支援学校を訪問し、児童・生徒の姿勢管理などについて、専門的な立場から教師に助言を行っている。今年度は6月3日(12名)、10月7日(8名)、1月27日(11名)の3回訪問し、延べ31名の児童に対応した。

4) 療育園・バンビ・相模原市（療育相談室・南こども家庭相談課）の連絡会

それぞれの状況を把握し、今後の方向性を見出す目的で、6月と11月に連絡会を開催した。

5) 生活支援課 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
5月	10日間	3年次 保育実習Ⅰ	町田福祉保育専門学校 こども保育学科	2名
	10日間	3年次 保育実習Ⅱ	町田福祉保育福祉専門学校 こども保育学科	2名
8月	20日間	2年次 施設実習Ⅱ	町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	2名
	12日間	3年次 保育実習ⅠB	横浜創英大学 こども教育学部・幼児教育学科	2名
11月	20日間	1年次 介護実習Ⅱ	和泉短期大学 専攻科 介護福祉学専攻	1名
1月	12日間	1年次 保育実習Ⅰ	アルファ福祉専門学校 こども保育学科	1名
	12日間	2年次 介護実習Ⅱ	大妻女子大学 人間関係学部 人間福祉学科	2名
2月	12日間	3年次 保育実習Ⅱ	相模女子大学 学芸学部 こども教育学科	3名
	12日間	1年次 保育実習Ⅰ	和泉短期大学 児童福祉学科	2名
	11日間	1年次 保育実習	聖ヶ丘教育福祉専門学校 保育士養成科	2名

6) つくしんぼまつり

相模原療育園後援会が主催をしていた「つくしんぼまつり」を後援会解散に伴い、園主催の事業として引き継ぎ、4月29日に開催した。保護者会、東大沼第一自治会の協力を得て、模擬店や和太鼓の演奏等に地域の方々、長期利用者、外来利用者等が集い、楽しい場を提供することができた。

7) 相模原療育園においでよ（さがおい）

在宅の重症心身障害児・者とその家族を施設に招き、生活支援スタッフによる「心と身体を動かそう～光のムーブメント～」のプログラムを実施した。5組のご家族17名と長期利用者4名が交流し、「あめ・AME・雨」をテーマに、スポットライトやミラーボール、パラシュートや水風船を使って、光の変化や触覚等の感覚刺激を楽しんだ。

8) にこにこ作品展

外来患者に呼び掛けを行い、絵画などの作品を施設内玄関ロビーに展示した。5歳から成人の発達障害や肢体不自由などのハンディのある方9名の絵や刺繍、レゴ作品等、15作品を展示した。それぞれの作品に多数の感想文が寄せられ、出展者への記念とした。

9) 相模原療育園公開講座

第8回相模原療育園公開講座を相模原市、相模原市医師会の後援を受け、10月4日に実施した。

今年度は、『身体にやさしい胃ろうからのミキサー食について』とし、当施設の管理栄養士による「胃ろうからのミキサー食をはじめましょう」、看護師による「安全な胃ろうからのミキサー食注入について」の2題の講演と「胃ろうからのミキサー食の実際」と管理栄養士、看護師3名を中心とした参加者全員での実技、体験を行った。参加者は35名であり、「興味があり参考になった」「具体的であり、わかりやすかった」「体験や実技を通して、理解が深まった」等と好評であった。

10) 相模原市重症心身障害児（者）看護研修事業

相模原市からの委託を受け、10月～1月の、主に土曜日に全10回開講した。今年度は、6年目の節目として、当園を会場としたシンポジウムと相模原市立あじさい会館を会場とした公開シンポジウムを開催し、多くの方々の参加を得た。

シンポジウムは、「看護の力を発揮しよう！」をテーマに、医療法人財団はるたか会看護リハ統括管理、梶原厚子氏による「どんな時も「健康」がそこにある」、と題した基調講演のあと、北里大学病院周産母子成育医療センターNICU（「NICUから始まる家庭内養育支援」）看護主任中野幸子氏、北里大学病院トータルサポートセンター（「在宅生活に向けての支援」）看護師荒木淳子氏、JA訪問看護ステーションさがみはら（「在宅生活の充実～Kちゃんと共に歩んだ12年～」）看護師野元いつ子氏の3人にシンポジストをお願いし、52名の参加があった。

公開シンポジウムは、「重症心身障害児者/医療的ケアのある障害児と共に暮らす～私たちが望むさがみはら～」をテーマとして掲げ、加山俊夫相模原市長の挨拶に続き、当園細田のぞみ施設長による「医師の立場から考えるライフステージを見すえた支援」と題した座長講演、当事者（学童期）ご家族 安達美幸氏（「笑顔あふれる未来へ」）、当事者（青年期）ご家族 中村尚美氏（「我が子の22年間を振り返る」）、児童発達支援・放課後等デイサービスすりーぴーす代表取締役 要武志氏（「就学前・就学時の療育について」）、相模原市立障害者支援センター松が丘園福祉サービス課看護チーム 増田政江氏（卒業後の進路先、松が丘園生活介護事業）、神奈川県立相模原中央支援学校支援連携グループ長 橋爪美津子氏（「教育の立場から」）、相模原市医師会訪問看護ステーション看護師 小堀京子氏（「訪問看護ステーションの活動」）、ヘルパーステーションユニコ管理者 岩野裕一氏（訪問介護の立場から）7名の発表とディスカッション、さらには相模原市重症心身障害児者ネットワークの協力による「地域生活を支える社会資源の紹介」、DVD「みんなのねがい」の上映と当事者とそのご家族をはじめ、議員、医師、看護師、福祉、教育、介護等に関わるさまざまな関係機関の方々等、230名の参加者があり盛大に開催することができた。また、公開シンポジウムにあわせて「重症心身障害児者に関わる相模原の社会資源と福祉の制度」（冊子）を作成し、配布した。

回	月 日	内 容	会 場	参加人数
1	10月8日	障害福祉施策・訪問看護概要	相模原療育園	17名
2	10月29日	重心の看護	相模原療育園	19名
3	11月5日	医療：気管切開・胃瘻	相模原療育園	34名
4	11月～1月	訪問看護・通所施設：同行、実習	相模原療育園	9名
5	11月20日	シンポジウム	相模原療育園	52名
6	12月3日	重心の看護	相模原療育園	16名
7	12月10日	医療：呼吸、肺呼吸理学療法	相模原療育園	24名
8	12月15日	相模原中央支援学校見学	相模原中央支援学校	12名
9	1月21日	北里大学病院小児病棟見学	北里大学病院	18名
10	1月29日	公開シンポジウム	あじさい会館	230名

6 施設管理

1) 相模原療育園大規模改修事業について

相模原療育園は、建築後28年が経過し、今後とも建物資産価値をより良い状態で維持する為の大規模な建物改修及び経年による劣化状態の改修等を実施するに値する時期であることから、専門の建築設計事務所と改修設計に関する委託契約を締結し、施設及び設備の調査を実施した。

これに合わせて、施設職員で構成する「大規模改修事業ワーキンググループ」の開催により、利用者の生活環境にも配慮した改修提案等について協議を重ねた。

2) 設備更新、修繕工事等について

今年度は以下の設備機器更新、修繕工事等を実施した。

1. 入園者用ベッド6台
2. 自動ドア設備
3. 電話設備
4. 滅菌器
5. 正面玄関エントランス庇部分幕板張替工事

3) 防火・防災について

火災、自然災害に備え、防災機器の定期点検を行い、消防署の指導のもと、職員で構成する自衛消防隊を中心に、避難訓練・消火訓練を定期的に行った。また年2回の総合訓練（うち一回は消防署と合同で実施）を実施し、職員の防災意識を高めた。

4) 防犯対策について

① 平成28年度社会福祉施設等施設整備費補助金を受け、次の防犯対策工事を行い、防犯体制の強化を図った。

1. 正面玄関前ポール（地中収納式）修繕工事
2. 防犯ガラス（合わせガラス）設置工事

3. 外灯（植栽灯）修繕工事
 4. 人感センサーライト及び防犯カメラ設置工事
 5. 防犯ボタン及びサイレン設置工事
- ② 南警察署生活安全課の警察官 2 名を講師に招き、職員を対象とした防犯訓練を実施した。さすまた（平成 28 年 9 月導入）を使った訓練や、武具や防具が手元がない場合の不審者対応など、職員役と犯人役に分かれ、複数のケースを想定した実践的な方法を学んだ。その他、職員証や入館証の発行を行い、職員及び外部事業者の入退館管理に努めた。また、事務職員による、施設外部の定時見回り業務も開始した。

7 その他

1) テーマ別ケース会 （職員研修）

開催日	担 当	テーマ	出席人数
5 月 24 日	事故防止委員会	ベッド柵上げ忘れゼロ運動 防災について考える	35 名
	感染対策委員会	手指衛生 ～擦式消毒薬編～	
6 月 30 日	栄養委員会	摂食評価の定例化について	30 名
	理学療法士	姿勢について（リハビリテーション）	
10 月 27 日	看護・生活支援部	ワークショップ「より良い支援について考える」	24 名
1 月 24 日	感染対策委員会	みんなの力で防ごう ノロウイルス集団感染	37 名
2 月 2 日	事故防止委員会	救急講習会 AED の使い方	28 名
2 月 28 日	看護・生活支援部	ワークショップ「接遇・マナーについて考えよう」	28 名

2) 施設内研修

開催日	講 師	テーマ	参加人数
3 月 7 日	和泉短期大学教授 鈴木 敏彦氏	障害者の権利擁護と支援者の役割	45 名

3) 園内実践報告会

開催日	演題名（発表者）	参加者数
3 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の保湿に対するスタンダードケアの確立を目指して（看護課） 2. 摂食評価会議の情報より食事時の姿勢を見直した一例（栄養委員会） 3. 利用者の生活を豊かにするための取り組みを通して（生活支援課） 4. 笑顔のある日常（生活支援員） 5. 気持ち豊かな生活と快適な環境をめざして（生活支援課） 6. 信頼関係構築をめざした支援（短期入所担当） 	56 名

4) 学会発表

発表者名 (共同演者含む)	演題名	学会名・場所・日程
細田のぞみ (共同演者)	子どもの事故の発生要因の解析と予防 —地域・年齢・症例特性の解析—	第119回日本小児科学会 ロイトン札幌 5月13・14・15日
細田のぞみ	発達障害の子どもを地域で支援する 「さがみ虹色ネット」10年の実践	第58回日本小児神経学会 京王プラザ 6月3日・4日・5日
細田のぞみ (共同演者)	保育園・幼稚園児の傷害に関する遊具・ 備品などの解析	第64回日本保健協会学術集会 大宮ソニックシティ 6月23日・24日・25日
細田のぞみ	発達外来に通院する子どもの事故 —その特徴—	第115回日本小児精神神経学会 横浜関内ホール 6月25日・26日
細田のぞみ 小川泰子	研修医2年目に相模原療育園で地域医療 研修を行った医師の意識調査	第42回日本重症心身障害学会 学術集会 札幌教育文化会館 9月16日・17日
深澤宏昭 樋口滋	理学療法士による特別支援学校への 学校訪問の経験	

5) 学術業績

発表者名 (共同著者含む)	題名	雑誌名
樋口滋・ 深澤宏昭 (共同著者)	Trunk deformity evaluation based on 3D measurements of front body surface landmarks in people with severe physical disabilities	Developmental Neurorehabilitation (オンライ ン版) Published online: 12 Aug 2016 DOI:http://dx.doi.org/10.1080/17518423.201 6.1211188

6) 講演会・講習会

開催月	講演者名	講演・講習会名	場所
4月	細田のぞみ	特別支援教育と医療① てんかん	玉川大学大学院
5月		特別支援教育と医療②③ 重症心身障害	相模原療育園
		特別支援教育と医療④ 発達障害 総論	玉川大学大学院
6月		特別支援教育と医療⑤ 自閉症	
		特別支援教育と医療⑥ ADHD	

5～6月	樋口滋	平成28年度 支援技術向上研修（介護） 「こち良さ」を目指して～身体のメカニズム と介助方法・ポジショニング・呼吸介助手技～ （3回シリーズ）	障害者支援センター 松が丘園
7月	細田のぞみ	特別支援教育と医療⑦ 障害受容の過程	玉川大学大学院
		発達障害ってなんだろう？～発達障害のある コドモのミカタ～	市民健康文化センター
8月	樋口滋	平成28年度 特別支援教育研修講座4 重度・重複障害児の医学的礎知識 呼吸と姿勢 「呼吸障害の理解と対策」	神奈川県立 総合教育センター 亀井野庁舎
9月	深澤宏昭	ケア検討会（2回実施）	障害者支援センター 松が丘園
9月	細田のぞみ	さがみ虹色ネット10周年記念講演会 診察室からみた学校の力 さがみ虹色ネット	市民会館大会議室
		第10回看護師（特別支援学校）スキルアップ 講座2 呼吸障害の対応	国立オリンピック 青少年総合センター
		幼稚園事例検討会	林間のぞみ幼稚園
		教育相談スーパーバイザーによる事例検討会	神奈川県立 総合教育センター
10月	開田美保	平成28年度相模原市発達障害支援センター 研修会 発達障害の早期発見とスクリーニング （第1回）	ウェルネス相模原
		医学部4年生 成長・発達系Ⅱ 障害児の医療と教育	北里大学医学部
11月	細田のぞみ	「医師」という仕事	相模原市立青葉小学校
		第43回東日本施設協議会 相模原療育園で地域医療研修を行った医師の 意識調査	新横浜国際ホテル
12月		平成28年 療育相談指導員研修 保護者支援と子どものアセスメントについて	児童発達支援センター バンビ
	開田美保	平成28年度相模原市発達障害支援センター 研修会 発達障害の早期発見とスクリーニング （第2回）	ウェルネス相模原

7) 研修・講演会参加

開催月	研修名	実施主体	参加者
4月	看護フェスティバル	相模原市看護協会	看護師
	接遇・マナー研修	県社会福祉協会	生活支援員
	人事・労務管理の基礎知識		
	平成28年度新人オリエンテーション	公益社団法人 神奈川県理学療法士会	理学療法士
	第15回子どもの福祉用具展 キッズフェスタ2016	子どもの福祉用具展 実行委員会	
	第103回摂食・嚥下指導（基礎・実習） 講習会	心身障害児総合医療 療育センター	
	重症心身障がい児・者に関わる薬剤師講習会		
第103回摂食・嚥下指導（基礎・実習） 講習会	管理栄養士		
5月	管理職員 キャリアパス課程	県社会福祉協会	
6月	障害福祉従事者の倫理観	障害者支援センター	生活支援員
	サビ管研修	神奈川県 重症心身障害児者協議会	
	新人看護師のためのフィジカル アセスメント	市病院協会看護部長会	看護師
	褥瘡予防のためのアセスメントと ケアの実際	神奈川県看護協会	
	神奈川県看護協会総会		
	講演会		
7月	ボランティア コーディネーター研修	県社会福祉協会	生活支援員
	平成28年度 第1回新人教育プログラム	公益社団法人 神奈川県理学療法士会	理学療法士
	日本病院薬剤師会医薬品安全管理者等講習会	日本病院薬剤師会	薬剤師
	特定給食施設等管理者及び従事者講習会	相模原保健所	調理師
8月	中堅職員キャリアパス対応生涯研修	県社会福祉協会	生活支援員
	第4回名古屋ビジョントレーニング	一般社団法人 視覚トレーニング協会	作業療法士

9月	摂食・嚥下指導 講習会	心身障害児総合医療療育センター	生活支援員
	介護福祉士実習指導者講習会	県立保健福祉大学	
	相模原市保健所感染症研修	市保健所疾病対策課	看護師・生活支援員
	重症心身障害児者施設職員研修会	重症児福祉協会	看護師
	医療安全管理者養成研修	神奈川県看護協会	
	看護と倫理		
	重症心身学術集会	日本重症心身障害学会	理学療法士
	第42回日本重症心身障害学会学術集会		
	平成28年度 第2回新人教育プログラム	公益社団法人 神奈川県理学療法士会	
	平成28年度 全国重症心身障害児者施設職員研修会 「栄養士・調理師コース」	公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会	管理栄養士・調理師
10月	重心療育学会	重症心身障害療育学会	看護師・生活支援員
	日中活動支援協議会	全国日中支援協議会	
	実践フォーカスチャータニング	JFCヘルスケア マネジメント協会	生活支援員
	実践・入院基本料に係る看護記録		看護師
	AED登録施設講習会	相模原市消防指令センター	看護師
	看護研究発表会	看護協会相模原支部	
	平成28年度 全国重症心身障害児者施設職員研修 「看護管理コース」	公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会	
	第43回国際福祉機器展 H.C.R. 2016	一般財団法人 保健福祉広報協会	
11月	第8回重症心身障害理学療法研究会 セミナー	重症心身障害理学療法研究会	理学療法士
	平成28年度 全国重症心身障害児者施設職員研修 「医療技術管理コース」	公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会	薬剤師

12月	実践報告会	神奈川県 重症心身障害児者協議会	看護師・ 生活支援員
	介護福祉士実習指導者フォローアップ研修	県立保健福祉大学	生活支援員
	摂食・嚥下指導 講習会	心身障害児総合医療 療育センター	看護師・ 理学療法士
第108回摂食・嚥下指導（基礎・実習） 講習会	理学療法士		
2月	発達障害のある子の評価と指導 WISC-IV	公益社団法人発達協会	作業療法士
	平成28年度 全国重症心身障害児者施設職員研修 「医療コース」	公益社団法人 日本重症心身障害福祉 協会	医師
3月	第34回神奈川県理学療法士学会	公益社団法人 神奈川県理学療法士会	理学療法士